

平成27年度理科で遊ぼう会の事業報告書
 総括と活動一覧

(事業内容)

市民ファンドゆめの芽の支援を受けた「こども達の自主精神を育む理科実験支援事業」の3年目であった。

この事業では前年度まで協働事業の枠外にあった事業の大部分もこの事業に加えて実施した。講座実施機関別に講座の内容毎のクラス数を表にする。カッコ内には26年度の実績を比較のため示した。

講座内容	小中学校	環境情報センター	子どもセンター等	出展形式(その他の事業)	計
モーター	12(9)	1(0)		1(2)	14(11)
変身プラスチック	0(6)	1(1)	1(0)		2(7)
飛行機	0(6)		2(0)	0(1)	2(7)
ヘロンの噴水	1(1)				1(1)
ビタミンCたっぷりなものは?	5(1)	0(1)			5(2)
電池	8(1)				8(1)
折り紙	1(3)				1(3)
ポンポン船	0(2)	0(1)			0(3)
土の生き物		0(1)			0(1)
ゴム動力ヘリ	1(0)		2(3)		3(3)
種モデル	2(0)		4(2)	4(2)	10(4)
キツツキ			0(2)		0(2)
糸電話			0(1)		0(1)
自転車のベル組立				0(1)	0(1)
総計	30(29)	2(4)	9(8)	5(6)	46(47)

上の表で小学校は出前授業、サマースクール、カルチャースクールを含む。また環境情報センターでの講座は夏の環境学校と理科実験教室各1回であった。子どもセンター等の内容は子どもセンターのみでなく、青少年健全育成協議会での講座を含んでいる。

なお、出展形式の行事は、ゆめの芽事業に提案した趣旨とは異なるので、ゆめの芽の事業とは枠外の事業として扱った。

より詳しくクラス、受講者の数を以下に示す。()内は26年度の実績。

講座の実施機関	クラス数	児童数
小中学校出前授業	25(20)	731(595)
小学校カルチャースクール等	5(9)	115(253)
環境情報センター	2(4)	37(89)
子どもセンター等	9(8)	234(200)
総計	41(41)	1117(1137)

その他の事業としては出展形式の行事のみに限った。

講座の実施機関	クラス数	児童数
その他の事業； 出展形式	5(6)	推定 200(推定 300)

不特定の児童が参加する行事で、モーター 8 名、種モデルグライダー約 190 で、全部合わせて児童数は 200 人程度と推定される。

従って、今年度、当会が関わった児童数はゆめの芽事業での 1117 名を加えて、ほぼ **1300** 名強と推定する。主な内容は次の通りである。昨年度に比べて 100 名減ってはいるが、これは出展形式の事業が減ったことによる。

ゆめの芽事業は規模としては昨年並みであったが、内容を見ると出前授業の増加が顕著で、特筆すべきは中学校での出前授業が実現しクラス数は 5 増加し、受講者数は約 130 増加した。一方で、カルチャースクール等はクラス数が半減し、受講者数も 120 減少したこれは小山小のサマースクールの規模の減少による。

環境情報センターの理科実験教室は昨年度すべて理科で遊ぼう会が請け負ったが、27年度は他のグループにも依頼したいという環境情報センターの方針で、講座数は半減した。一方で青少年健全育成協議会からの依頼が 3 件もあった。その結果、内容の傾向は前年度と異なるが、ほぼ同程度の規模を保つこととなった。

1) 出前授業

学校名	講座名	学年	クラス数	受講者数
東林中学校	木炭電池	3	4	146
谷口台小学校	ビタミンCたっぷりなものは	6	4	115
谷口台小学校	モーター	5	4	129
小山小学校	木炭電池	6	3	104
小山小学校	モーター	5	3	82
清新小学校	モーター	5	4	135
藤野北小学校	ヘロンの噴水	4	1	7
藤野北小学校	モーター	5	1	5
藤野北小学校	ビタミンCたっぷりなものは	6	1	8
合計	-----	---	25	731

2) 小学校カルチャースクール等

小学校名	講座名	クラス数	児童数
弥栄小学校	種モデルグライダー	1	11
小山小学校	折り紙	1	43
小山小学校	ゴム動力ヘリコプター	1	40
はやぶさ学園	種モデルグライダー	1	9
南大野小学校	木炭電池	1	12
合計	-----	5	115

3) 環境情報センターでの行事

授業名	講座名	クラス数	児童数
夏休み環境学校	変身プラスチック	1	24
理科実験教室	モーター	1	13
合計	-----	2	37

4) 子どもセンター等での寺子屋。

実施団体名	講座名	クラス数	児童数
上溝南子どもセンター	バルサ紙飛行機	1	29
橋本子どもセンター	変身プラスチック	1	26
相武台子どもセンター	種モデルグライダー	1	34
横山子どもセンター	種モデルグライダー	1	21
新磯子どもセンター	バルサ紙飛行機	1	16
麻溝子どもセンター	種モデルグライダー	1	24
大沼青少年健全育成協 議会	ゴム動力ヘリコプター	1	22
小山青少年健全育成協 議会	種モデルグライダー	1	37
小山青少年健全育成協 議会	ゴム動力ヘリコプター	1	25
合計	---	9	234

その他に、環境まつりに参加して、モーターと種モデルグライダーを出展形式で行い、それと同時に去年同様、教育プログラムコンテストに参加し、変身プラスチックを提案し、優秀賞を獲得した。賞金として3万円が授与された（前年度は会場賞、賞金1万円）。また、大野北公民館の公民館まつり、陽光台公民館の子どもまつり、相模原イオンにおけるサポートセンター行事に参加して種モデルグライダーを出展形式で実施した。市民活動サポートセンターのボランティアチャレンジスクールにも協力し、高校生2名を受け入れた。彼らに対し、変身プラスチックの予備実験を実施して、環境情報センターでの授業に参加して小学生の指導に当たる機会を作った。

実施した講座の中で特に多かったテーマはモーターで、14講座、実に367名が受講した。それに備えて、モーターキットの作成は400台に及び、今までで最大数である。会員による教材作成のための作業会の多くの時間をこれに当てた。次いで多かった授業は、木炭による電池で8講座262名、種モデルグライダーが6講座136名、ビタミンCたっぷりなものは？（ビタミンC濃度滴定実験）の5講座123名と続いた。ビタミンCの実験では大方の子がレモンが最も濃いと信じていたのが、実験を通してそうではないことを知り驚き、皆が言ってるからとか、有名な人が言ったからというような理由で信じるのではなく、自分で調べ確認することの大切さを感じ取ったようであった。

（会の運営）

役員会

（1）平成27年度第一回役員会

7名の役員中5名が揃う日を見出すのが難しく、結局集まったの会議をやめ、ネット上のメールにて実施した。

日時 日程；2015年5月14日～16日

場所 ネット上のメールによる。

出席 金子、田中、中川、中山

欠席 甲斐田、加藤、矢野

代表として、田中 皓、副代表として、甲斐田博高さんが担うことが総会の席で役員間で了解済みであったので、その件は省き、執行部の位置づけで運営委員会を構成する提案しました。

中山英夫さん；主に教材作成関係の生産管理、工作器具の管理を担当。

中川新一さん：主に作業会の運営を担当。

生野幸子さん：主に授業実施の運営を担当。

長谷川良枝さん：会計を担当。

山崎徳嘉さん：主に実施先交渉を担当

田中皓：主に外交および運営委の全般、補助を担当。

以上6人による運営委を構成する。

以上、出席役員の賛成により可決した。

(2) 平成27年度第二回役員会（拡大役員会；メール上）議事録

日時 平成28年4月10日ー12日

場所 ネット上のメールによる。

出席 加藤、甲斐田、金子、生野、田中、中川、中山、長谷川、山崎、矢野（アイウエオ順）

- 1) 平成27年度の事業報告書、ゆめの芽事業報告書、決算書、ゆめの芽決算書の案を審議し、字句の一部修正のうえ監査に提出することとした。
- 2) 平成28年度の事業計画書、収支予算書、キリン子育て支援収支予算書の案を審議し、字句の一部修正のうえ総会に提出することとした。

定例作業会；ほぼ月2回、合計19回（その内ゆめの芽の事業に対応されるのは17件）、そこで会員間の意思疎通が図られたこともあって

特に運営委員会を開く必要はなかった。 ppt ファイルの再検討、授業内容の再検討が行われた。木炭電池、ビタミンCの濃度滴定実験の仕方については活発な意見交換があったが、前者については、”燃料電池”という位置づけに疑問が残ったままで、今の形だと、燃料電池は事前に電気分解（充電）するという誤解を招きかねないので、その名称は採用せず、充電型木炭電池という名称にしている。後者については材料の選定（パブリカが高価に過ぎるので）で議論があった。

活発な議論がなされたことはとても良いことであったと思う。

運営委員会；

作業会における協議を通して、意思の疎通が図られ、特に運営委員会を開く必要はなかったが、各運営委員は、作業会、教材作成、会計、の分野で事業が円滑な実施に寄与された。ただ、事務局の中心の役割をお願いした委員の本業が大変多忙となり、代表が事務局をか

ねる形となってしまったので、再度事務局体制の構築が必要となる。

支援を受けていた、市民協働ファンドゆめの芽の支援は平成 27 年度を持って終了するため、新たに助成先を見出す必要があり、3 件の申請書を作成した。その内容の精査を運営委員、役員にお願いした。

平成28年度の活動支援金獲得のための活動；

- (1) 子どもゆめ基金説明会出席；活動形態が基金側の制限が強いため合致せず断念
- (2) 「心を育む総合フォーラム全国運動に応募；」これは懸賞金（100万円、30万円）助成ではない。不採択であった。
- (3) 新相模酸素の幹部と会見（田中&金子）今回一回だけということであったが、10万円の寄付をいただくことになった。すでに入金。
- (4) キリン福祉子育て応援事業に応募；採択され、請求額満額（24万円）が認められた。4月8日贈呈式、4月末日入金予定。

エフエムさがみの番組に2回登場した。まずは7月に環境情報センター番組の「エコde行こう 相模原」、10月に相模原市商工会議所都市産業研究会（都産研）の番組の「一緒に考えよう！相模原の未来、日本の未来」に出演した。前者は音声データを環境情報センターからもらい、作業会や授業の様子の写真と組み合わせたビデオを作製し、HPに載せた。また後者も都産研で作られ YouTube にアップされたビデオを HP からも見えるようにした。

その他；生産管理、作成した教材の管理はスムーズに行われた。特に400台ものモーターセットを作成したことは画期的であった。

（会員の異動、実施授業テーマ）

2名の方がおやめになったが、新たに2名の参加を得て27年度の正会員は23名であった。賛助会員は前年度と同じ2名である。

前年度新たに戦列に加わったゴム動力ヘリコプターが2か所の青少年健全育成協議会の事業と小学校のサマースクールで採用され、成熟した教材に発展した。

昨年、新たに加わった、変身プラスチックは既に2か所で実施した。

一方で新規の教材の開発も試みられた、静電気によるモーターやベル、日時計、水時計、ホバークラフトなどが教材モデルとして提案され、検討中である。まだ60分ー90分の授業の形に仕上がる段階にはなっていない。

（今後の課題）

ゆめの芽の支援は平成27年度で終了した。平成28年度はキリン福祉財団のキリン・子育て事業および新相模酸素からの賛助金によって事業を継続可能となった。

課題はこの事業実施するに参加者が積極的に動ける人が不足気味であることで、授業実施二酸化される会員が偏りがちになることが心配の種であった。特に2月下旬（19日から29

日)に集中した小学校出前授業は土日以外は水曜日のみ授業のない日で、かなりタフな旬間であった。外からの応援も頼んで解決したが、会員を増やすことが大きな課題である。